2015年4月19日発行 ■発行責任者／長谷川利彦 ■編集・制作／（株）プロトリオス ■発行／（株）NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL03(5475)1200 定価／1部30円

NIPPON GOOD PARTS NGP NEWS 2015 No.289 4月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

損保料率機構、「自動車保険の概況」平成26年度版を発行

前年度と比較して保険支払件数は減少 1台当たりの平均修理費は増加

損害保険料率算出機構はこのほど、「自動車保険の概況」平成26年度版（平成25年度データ）を発行しました。同書は、自賠責保険と任意自動車保険に関する基本的な統計資料のほか、自賠責保険制度の改定や交通事故統計などの関連資料をまとめたもので、毎年発行されています。同書から自動車保険の収支や付保率などについて、過去のデータとの比較を交えて紹介します。

平成25年度の任意自動車保険の収入保険料（グラフ1）は3兆3,582億円で、前年に比べ963億円（3%）の増加がみられました。一方、支払保険金（グラフ2）は1兆8,311億円で1,048億円（5.4%）減少しました。

補償種目別（表1）を見ると、付保台数は搭乗者傷害保険以外で前年度から増加しています。しかし支払件数は全種目で、支払保険金額は対人賠償以外が減少しました。特に車両保険は、支払件数が262万7,231件で前年度比マイナス64万件、支払金額は6,816億円で、同マイナス886億円とその金額は大きく減少しました。これは、平成24年度以降に実施されたノンフリート等級別料率制度の改定によって、保険契約者が修理時に保険を使用することを控えた影響だと考えられます。

1台当たりの平均修理費は対物賠償保険で22万2,588円、車両保険で24万215円でした（グラフ3）。前年度はそれぞれ21万301円と21万7,569円でしたので、ともに増加したことになります。

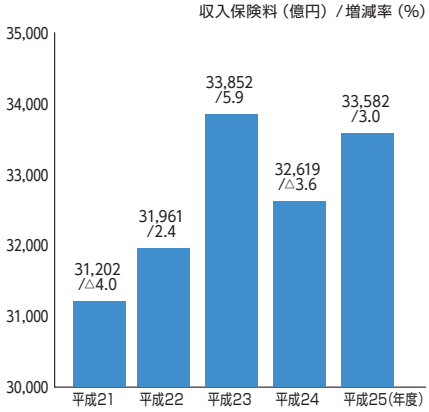
特に車両保険では、1割以上と大きく金額が上昇しています。これも等級制度改定を受けて、保険契約者が軽度で安価な修理に対して保険を使用することを避け、結果として保険修理全体に占める高額な修理の比率が増えたためと捉えることができます。その構成比を見ると部品費が、対物で前年度より0.4%高い52.7%、車両で1.3%高い55.1%となりました。

保険が使われなくなったことで、自動車整備・修理工場にとり、部品費の低減はますます重要になりました。こうした状況下で、リサイクル部品の活用は顧客満足度を高める有効な手段となります。その一助となる「クルマ直しの新しい選択」NGPエコひろばホームページへの工場登録などについては、最寄りのNGP組合員へぜひご相談下さい。

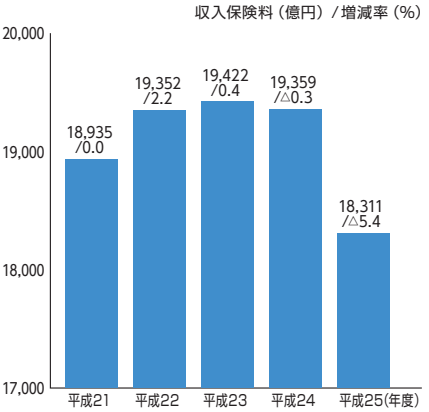
表1　補償種目別推移

補償種目		平成23年度	平成24年度	平成25年度
対人賠償	付保台数（台）	57,863,842	58,370,686	58,927,196
	（対前年比）	114,305	506,844	556,510
	支払件数（件）	496,231	502,694	494,699
	（対前年比）	17,602	6,463	-7,995
	支払保険金（千円）	394,649,600	385,723,116	385,982,876
	（対前年比）	-3,346,347	-8,926,484	259,760
対物賠償	付保台数（台）	57,841,069	58,361,115	58,937,719
	（対前年比）	127,583	520,046	576,604
	支払件数（件）	2,746,443	2,681,332	2,485,894
	（対前年比）	-17,244	-65,111	-195,438
	支払保険金（千円）	681,211,915	690,548,706	680,246,794
	（対前年比）	12,569,637	9,336,791	-10,301,912
搭乗者傷害	付保台数（台）	35,711,935	34,344,499	33,450,485
	（対前年比）	-3,892,381	-1,367,436	-894,014
	支払件数（件）	471,747	448,641	437,498
	（対前年比）	-72,914	-23,106	-11,143
	支払保険金（千円）	82,032,593	72,252,980	67,356,016
	（対前年比）	-14,098,901	-9,779,613	-4,896,964
車両	付保台数（台）	33,312,774	33,953,388	34,482,134
	（対前年比）	420,743	640,614	528,746
	支払件数（件）	3,368,467	3,276,034	2,627,231
	（対前年比）	13,426	-92,433	-648,803
	支払保険金（千円）	771,405,208	770,317,830	681,659,960
	（対前年比）	15,489,586	-1,087,378	-88,657,870

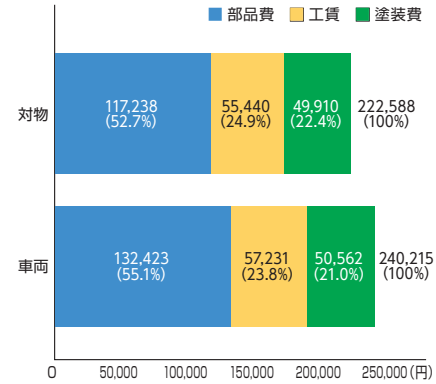
グラフ1:任意自動車保険・収入保険料の推移



グラフ2:任意自動車保険・支払保険金の推移



グラフ3:1台当たり修理費費目別金額及び構成比



日本自動車機械工具協会が省エネ補助金の証明書発行団体に

申請受付は３月16日よりSIIで始まる

地域工場・中小企業等の省エネルギー設備導入補助金（最新モデル省エネルギー機器等導入支援事業・Ａ類型、以下、省エネ補助金）の詳細がようやく見えてきました。ここでは３月20日時点で判明していることをお伝えします。

今回は全国の中小零細企業、それも製造業だけではなくサービス業も補助金の対象としていますので、自動車整備・修理事業者も申請できます。

自動車整備・修理業界で省エネ補助金に関わる証明書発行団体には、日本自動車機械工具協会（以下、機工協）が指名され、Ａ類型に組み入れられる燃焼設備、熱利用設備、電気使用設備、空気調和設備、照明設備を担当することが決まりました。

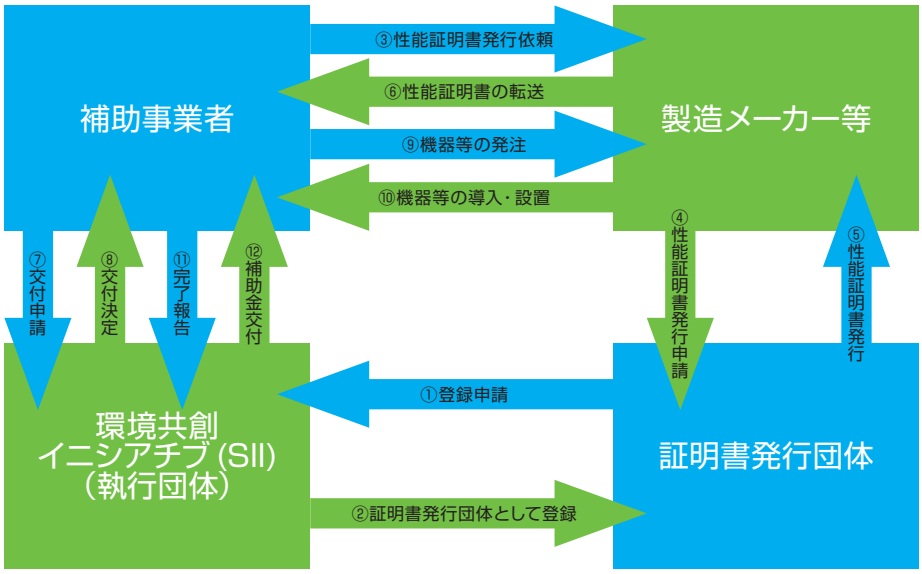
機工協は補助対象カテゴリーに該当すると思われる自動車整備用機器として、次のような製品を挙げています。燃焼設備としては塗装乾燥ブース、熱利用設備は遠赤外線乾燥装置やスポット溶接機、省エネ型赤外線乾燥装置、電気使用設備としてはいずれもインバーター制御装置付きの油圧リフト、エアコンプレッサー、門型洗車機などです。あえて「思われる」としているのは、初めて証明書発行団体になったということもあり、慎重な姿勢になったものと思われます。

補助対象者は、事業を営んでいる法人と個人事業主で、補助対象経費は機器の購入費に限られます。下限は１事業所当たり50万円から、上限が１億５千万円、補助率は３分の１以内（ただし、エネルギー多消費企業は２分の１以内）です。

公募期間は３月16日から始まっており、受付期限は2015年12月11日16時迄です。申請書の提出先は執行団体である環境共創イニシアチブ（以下、SII）へ配送状況が確認できる手段で郵送することとしており、直接持ち込みは不可となっています。また、交付決定額の合計が予算額に達した場合、平成26年度の補正予算であるため、公募期間中であっても申請は受理されないことになります。

先に列記しました補助対象製品を製造するメーカーなどが、機工協から省エネ効果の証明書を発行してもらったものを添付して、申請することになります。最新モデル省エネ機器の要件は次の通りです。

最新モデルの省エネ機器導入支援（A 類型）の事業スキーム



・「補助対象カテゴリー表」に記載の機器であること
・最新モデルの省エネ機器であること
・同一メーカー内の１世代前のモデルとの比較において、年間平均１%以上省エネ性能が向上していること

SIIのWebサイト（https://sii.or.jp）には省エネ補助金についての詳細がまとめられており、交付規程、公募要領、交付申請の手引き、補助金対象カテゴリー表、同機器用語解説、よくある質問と回答などが公開されていますので、参考にして下さい。

省エネ補助金は、総額929.5億円にのぼる大型予算です。あらゆる業種の中小企業に有効に使ってもらうことで、特に地方における景気の底上げを目指す措置でもあります。

自動車整備・修理事業は、地方経済の運輸インフラを支える重大な役割を果たしています。省エネ補助金を積極的に活用することで、基盤強化の一助にしてほしいと思います。

NGP 今月のCO_2削減量

リサイクル部品利用に伴う削減効果

平成27年２月：**4,027t**

※一般社団法人 日本自動車工業会が1998年に公開している自動車LCA（ライフサイクルアセスメント）データをベースに、NGPにて1500cc車両の部品重量調査結果からCO_2削減効果参考値を算出しております。

リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

平成27年２月：**21.9t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO_2排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

（株）あいおいニッセイ同和自動車研究所、「自費修理対応実践講座」を開講

リサイクル部品を使用する安価な修理のメニュー化と「ぱっと！くん」活用法を学ぶ

（株）あいおいニッセイ同和自動車研究所は3月5・6日の2日間、同社埼玉センター（埼玉県さいたま市）で「自費修理対応実践講座」を開講しました。

同講座は、2012年10月からの自動車保険等級制度改定以降、自動車保険を使用せず自費で安価に損傷個所を修理したいというニーズが増大していることを踏まえ、その対応力を強化するための修理メニュー作りや技法、接客スキルなどを習得するものです。初の開講となる今回は、（株）ナオイオート（直井清正社長、本社＝茨城県取手市）からフロントスタッフ数名が参加しました。

初日の冒頭は、埼玉センター長を務める橋本敏成常務が安価な自費修理ニーズ増大の背景を解説しました。自動車保険等級制度改定により、車両保険の請求を取り下げる請求棄却率が、あいおいニッセイ同和損害保険（株）（以下、AD損保）では約25%に達しており、さらに約9割のカーオーナーが今後の修理について自己負担を検討していることをデータで示しました。

また、自動車の維持費増加や平均使用年数の長期化、女性及び高齢ドライバーの増加、自動車に対する価値観の変化、軽自動車のシェア急増などもニーズ増大の理由とし、「松」・「竹」・「梅」の3ランクからなる自費修理メニューを設定することの重要性を訴えています。

なお、自費修理展開の要件として橋本常務は、①価格に見合った作業工程の簡略化、②リサイクルパーツの活用、③部品交換から修理対応への転換、④外注依存から内製化への転換、による修理技法のワイドバリエーション化に加え、フロントの見積り作成及び説明能力の充実、鈑金・塗装・見積り各部門の連携強化などを挙げています。

さらに、リサイクル部品と同業界の現状について、「部品取り車両の仕入れ価格及び運送費の高騰などで平均単価が上がりつつありますが、それでも特に低年式車では、車両のモデルチェンジごとに価格が上昇する傾向にある新品純正部品との差は拡大する傾向にあります」と説明しました。

指数など事故車見積りの基礎を学んだ後には、トヨタ・カローラフィールダー（E14＃系）を用い、フロントフェンダー及びフロントドアパネルを新品純正部品へ交換する「松」見積りと、前者をリサイクルパーツへ交換し後者を鈑金修正する「竹」見積り、「竹」からさらに各工程を簡略化する「梅」見積りの内容と作業方法の詳細を解説し、実車では仕上がり品質の違いを確認しました。そのほか、さらに修理費用を低減しつつ収益を向上させる方法として、バンパー簡易修理及びガラスリペア技法の実演、ヘッドランプリテーナー活用法を紹介しています。

2日目は、初日に学んだ修理メニュー及び技法を、飛び込みで入庫したカーオーナーに説明・提案することを想定した、接客ロールプレイングを実施しました。まずは「松」修理を提案しつつカーオーナーの意向を確認し、安価な自費修理を希望の場合は説明ツールを活用して、修理ランクごとに仕上がり品質が異なることを納得してもらいながら「竹」修理を提案、合意を得るための流れを体得しました。

同講座に参加した（株）ナオイオートのフロントスタッフ。左から笠木千香子氏、羽場秀紀氏、中村和利氏、古渡正樹氏。「当社入社前、愛車に付いた凹みの修理見積りを他社に依頼したら非常に高額でした。松・竹・梅の修理メニューがあればその際に入庫していたと思いますので、同様の選択肢を用意してお客様に提案できるよう励みます」（笠木氏）

そして、自費修理対応の好事例を学んだのち、AD損保とNGP日本自動車リサイクル事業協同組合が共同開発した「かんたん鈑金見積システム ぱっと！くん」で、リサイクル部品を用いた自費修理見積りの作成方法を、実践を用いて学んでいます。

橋本常務は最後に、「『竹』・『梅』修理は“安かろう悪かろう”の修理ではありません。カーオーナーが望み、納得し満足する価格と品質で提供する修理であり、それを実現するには『松』修理よりもむしろ高度な修理技術や見積り・提案スキルを身に付ける必要があります。こうした“お客様本位志向”のサービスで自社を変え、収益向上に結び付けて下さい」と、同講座の意義を説明しながら参加者を激励し、同講習会を終了しました。

一部工程を簡略化して修理されたカローラフィールダーの左フロントフェンダー及びフロントドアパネルを確認。注意深く見れば色の違いが分かるものの、一般カーオーナーの大半には判別できないレベルに仕上げられている

「ぱっと！くん」では「NGP ダイレクト」でリサイクル部品の在庫を検索できるほか、品質・保証内容を説明する動画の再生や保険料シミュレーションも可能。直感的な操作画面も相まって参加者はスムーズに活用方法を体得していた

あいおいニッセイ同和損害調査（株）・埼玉技術調査部、「パートナーズセミナー」を開催

スムーズな見積り協定や質の高い損傷判断につながる情報を共有

あいおいニッセイ同和損害調査（株）・埼玉技術調査部は３月６日、（株）あいおいニッセイ同和自動車研究所埼玉センター（埼玉県さいたま市）で、県内の自動車修理事業者を対象とした「パートナーズセミナー」を開催しました。

冒頭、挨拶に立った村上剛常務は「近年は軽自動車の販売台数が増加しているため、当社でも立ち会いにおける軽自動車の比率は高まっています。また、FCVの販売開始や先進安全装置の普及、自動運転実用化に向けた動きなど、自動車業界は大きく変化しています。保険においても、テレマティクスを活用して急ブレーキ、急発進、速度超過などのデータを集め、運転特性を保険料やサービスに反映するという新たな取り組みが見られます。自動車の技術や保険が変わりつつある中、我々も時代に乗り遅れず最新の情報を共有できるよう努めていきます」と、今後も研修内容の充実を図っていく考えを伝えました。

続いて、首都圏調査コントロールセンターの水橋信治センター長が、画像伝送で修理費協定をする際の写真撮影方法を紹介しました。デジタルカメラの普及により、画像伝送による協定が増加している現状とともに、画像には対象車両の損傷状態を客観的に表す資料としての役割と、法律上の賠償責任に係わる証拠保全を目的とした２つの重要な役割があることを強調しました。

具体的な撮影方法については、①フロントまたはリヤのナンバープレートが分かるアングルからの撮影（基本撮影）、②全体から細部への撮影（基本撮影で分かりづらい部位を捕捉撮影）、③カメラの高さを損傷部位に合わせて撮影、④損傷が及んでいる部位をすべて撮影、の４点をポイントに挙げています。

続いて、埼玉技術調査部川口調査グループの内野薫グループ長が、事故解析の技法について講演しました。「車両入庫時に事故の状況や衝突対象物などの事故内容がしっかりと確認できれば、顧客に不快感を与えずに事故解決に向けた方向性を明示することが可能となるとともに、別事故による損傷の説明などにも役立ちます」と、事故解析能力の有効性を示しました。その後、損傷車両の写真を用いて、傷の形状や衝突対象物の塗料の付き方から事故内容を検証する実際の方法が示されています。

NGP組合員かわら版

第27回中級研修会開催

エアコン・エンジン・AT・HVの専門技術と部下の能力を引き出すリーダーシップを体得

リーダーシップマネジメントでは部下の話をよく聞き長所をほめることの重要性を体感

カーメーカーごとに異なるエアコンの構造と点検方法を学ぶ受講生たち

第27回中級研修会が３月２～６日の５日間、（株）あいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センター（静岡県裾野市）で開催されました。生産、フロントの２部門から計37名が参加し、うち３日間はエアコン＆エンジン診断、オートマチックトランスミッション、ハイブリッドシステムの３分野に分かれ、実車・実機を用いた専門的な技術研修・講義を受けたほか、２日間は２部門合同で、リーダーシップのマネジメント、自動車リサイクル部品業界と整備業界の動向について受講しました。

（株）辻商会の吉田稔さんは「リーダーとは何か、リーダーのすべきこと、今の自分に足りないものを知ることができました。これからは会社の現状を常に把握し、部下の育成にも力を入れ、自分自身も自動車の勉強にしっかり取り組んで、会社をリードしていきます」と、自ら模範を示すことがリーダーシップの発揮につながることを学びました。

５日目の修了式では、「日々発生した問題では『なぜ、なぜ』を繰り返し、真の原因を突き止められるよう、自らが指揮を取り会社をまとめます」（（株）アートパーツ長野・丸山政英さん）、「リーダーとして愚痴や不満、弱音をもらすことなく、会社の目標に向かって全員でぶつかっていく組織を作っていきます」（エコテクノ（株）、平光淳一さん）と、中級研修受講後の決意を表明しました。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局
〒108-0074　東京都港区高輪３丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1208　FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP
〒108-0074　東京都港区高輪３丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1200　FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp/